

<JBC 各校・クラブ紹介③>

大阪府立大学ボート部/OB 会(飛翔会)

文責：伊藤文夫

1. 初めに

昭和 24 年生まれ団塊世代の伊藤文夫と申します。

ボート団塊号が 14 年前に弓場会長の肝いりで誕生して以来、今日までお世話になっております。既に 30 校の紹介文が掲載されましたが、そのうち約半数の筆者が団塊号のメンバーです。(11 月末現在)

JBC 様には自宅が蕨と戸田に近いこともあり、山浦様からこの 4, 5 年 JBC クルーの代漕役を仰せつかり楽しく乗艇させて頂いています。戸田国立艇庫に所有の団塊号艇も一昨年 JBC 様から譲り受け、戸田漕艇場のレースでは大活躍をしています。

また近年大問題となっている漕艇場の水草対策では、淡青会佐野様から作業リーダー役を仰せつかり除去作業のお手伝いをさせて頂いております。

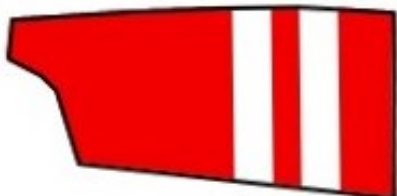
さて大阪府立大学ボート部は創立 57 年目を迎えますが、令和 4 年には大阪市立大学との統合が控えており、現役ボート部並びに OB 会の統合の準備が進んでいます。(先般の大阪都構想の住民投票とは関係なく決定事項です)

先般新大学名が大阪公立大学(仮称)と案内されましたが、両校 OB にとっては未だ実感はないようです。いっその事 昭和 30 年まで大阪府立大学前身の名前であった浪速大学は如何でしょうか?

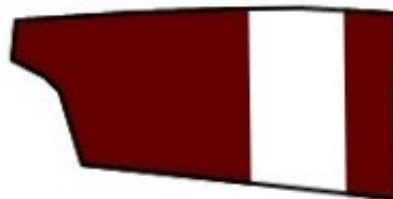
大阪市立大学ボート部は既に紹介済で皆様ご承知のことと思いますが、我が校の二倍の歴史があります。

然しながら OB 会の融和は兎も角として、新大学のボート部には大いに期待するところ大です。吉村知事、松井市長に負けない灰汁の強さで、関東勢に立ち向かってもらいたいものです。

処で大阪府立大のブレードカラーはマルーン(阪急電車の車体色)に白線、大阪市立大学は紅色に白二本線ですが、新大学のブレードは何色になるのでしょうか?



大阪市立大学
創部1890年
大阪市都島区 大川(桜ノ宮)



大阪府立大学
創部1963年
高石市 浜寺漕艇場

2. 創立の経緯

東京オリンピックの前年、昭和 38 年秋経済学部 2 回生であった正徳道弘、佐口光由他 4、5 名が、関西の他大学に有って府大にないのはボート部である、府大生は坊ちゃんタイプが多く野性味に欠けるという理由で、全くボートを漕いだことのない連中が、漕艇部設立を学生課に交渉の結果どうにか認可されました。また教養学部ドイツ語教師の大原親様に部長をお願いしたところ、中学時代にフィックスを一年ほど漕いだ経験があるのみにも拘らず快く引き受けて頂きました。

当初艇はもちろんのこと部室も練習用具もなく、廃材を集め低鉄棒を作り、鉄心とバケツにコンクリートを詰めてバーベルを作り、陸トレに励みました。さすがにバック台だけは自作できず、部員の貯金を吐き出して桑野造船より 4 台を購入しました。

その後正徳氏は近畿大学商経学部教授として勤務しますが、近畿大学ボート部の設立（1985 年）にも関与しました。



**10 年史より

3. 成長期(昭和 40 年～)

昭和 39 年春に瀬田で初合宿の際、大原部長の知己で京都大学高木先生のご尽力によりフィックス艇を借用し、始めてオールを握り水上に出ました。

帰阪後も高木先生の紹介で京阪電鉄所有のナックル艇を借用するなどのジブシー生活が続きました。

その後は京大 OB の高野晃兆様に初代コーチをお願いし、大阪市民レガッタ、関西選手権にナックルで出漕し初シーズンを終えましたが、対戦相手は全て社会人クルーでした。

昭和 40 年フォアーにするかエイトにするかで侃々諤々の上、ハルがプラスチック製のエイトを桑野造船から購入しました。大原先生が歴史も古く活発な活動を続けていた、東京都立大学ボート部顧問の先生に尋ねたところ、自分の所は未だシェルフォアーです、大阪の方は違いますなど感心し、半ば呆れられたそうです。

購入資金については OB も未だ居ないため、部員のバイト、学生部への折衝に加え地元堺市の商工会議所から多大なる援助を頂きました。

新艇は大学所在地名の百舌鳥に因み、駄(モズ)と命名しました。知らない人はこれを(ケツ)と読む人もいて、成績の方はぱっとしませんでした。3泊4日の琵琶湖遠漕も実施しました。

徐々に部員も増え昭和 42 年春には、京阪電鉄の牧隆三様(京大 OB)の紹介で、早稲田大学 OB の佐藤建義様をコーチとして迎え、府大漕法を確立するため、3年計画で取り組みました。一年目は基礎体力、ボートの基本、部の体制作り、二年目は府大漕法作り、レースでの実践、三年目は府大漕法の確立、関西のレースで決勝進出を目指しました。

更に昭和 44 年には浜寺に大阪府立漕艇センターが開設され、ジブシー生活に別れを告げることができました。最も当時は高度成長期の真っただ中で、堺泉北臨海工業団地に囲まれた浜寺運河の水はコーラ色でした。因みに昭和 45 年には吹田の千里丘陵で世界博覧会が開催されました。その結果昭和 44 年には入賞はかないませんでした。朝日レガッタの決勝進出を果たすことができました。

また従来は 7 月末の関西選手権でメインレースは終了しましたが、佐藤コーチのご厚意で早大艇を借り受け、オックスフォード盾に出漕しました。結果は準決勝止まりでしたが、ボートのメッカである戸田の水や空気に触れ、また各大学クルーと直に接し普段は浜寺で孤独な乗艇に慣れている者にとっては、大変刺激を受けました。宿泊は都立大が借りていた民家の離れを提供して頂き、快適に過ごすことができました。

なおこの年はオーストラリアのメルボルン大が全日本選手権に出場しました。その時のクルーキャプテンが、2014 年にメルボルン近郊のバララット湖で行われた世界マスターズレガッタのホスト役を務められたとのこと。

さて翌年からは榎本 OB コーチが佐藤コーチの後を受け、部員一丸となり府大漕法

のレベルアップに努めた結果、朝日レガッタに於いて、昭和46年は二位、47年は三位の成績を収めることができました。特に47年の朝日レガッタは25回記念レガッタで一位北大、二位慶応、四位早稲田、五位同志社、六位大市大と実質的に関西では一位の成績を収めることができました。

また都立大と昭和43年、大阪工業大とは昭和45年から定期戦を開始し、都立大とは戸田と浜寺を交互に、大阪工業大とは浜寺で2000mレースを実施してきました。



第25回記念朝日レガッタ全国大会 (47・4・30)

予選手前より大阪府大，北大，同大A，神大，電谷大



同上決勝 手前より大阪府大 (3位)，慶応大 (2位)，

早大 (4位)，北大 (1位)，同大 (5位)

大阪府立漕艇センター



コース長：2000m、コース幅：90m、レーン数：6レーン

4. 低迷期(昭和50年～)

昭和51年朝日レガッタに於いて三位となり、また飛翔会OBクルーも初参加を果たしましたが、その後は朝日レガッタ、関西選手権ともに決勝進出もままならない状態が続きました

特筆すべきは、昭和52年の朝日レガッタのシングルスカルで、女子オアズマン（ウーマン）の岸さんが二位、関西選手権では三位、大和田さん（旧姓池田）が四位となり、翌53年には大和田さんが朝日レガッタ、関西選手権ともに三位に入賞したことです。

大和田さん曰く、「男子部員と一緒に合宿生活を送り、精神力の強さ（図太さ）を養えたことが良かった」とのことです。

またその年、皆様よくご存じの推理作家東野圭吾の「あの頃ぼくらはアホでした」という本の中に、一浪後府大を受験し合格証明書を貰いに行ったところ、ボート部の新入生勧誘者に部室に連れていかれ、カレーを食わされ拉致されそうになったが、結局アーチャーリー部に入ったとの記載があります。

さて戦績の方は、昭和63年の朝日レガッタの付きフォアにおいて、トヨタ自工、NTT関西、京阪電鉄などの社会人に対抗して決勝進出を果たしたのが目立つ程度です。

5. 存続の危機（平成元年～）

平成の御代となっても、朝日レガッタ、関西選手権、全日本大学選手権に於いて準決勝進出が精一杯の時期が続きました。

特筆すべきは、平成3年の全日本大学選手権と並行して開催された全国大学スカル選手権において船橋淳君が4位に入賞したこと位でしょうか。その年には中日本レガ

ッタにも参戦しました。

さて平成7年1月17日未明には阪神大震災が勃発し、OB並びに学生諸君の中にも被害を受けた家屋がありました。(幸い人的被害はありませんでした)

更に平成8年には永らく拠点としてきた、大阪府立漕艇センターでの合宿が出来なくなりました。大阪府と交渉の末、漸く平成14年には再開できたものの、今度は新入部員がゼロと云う事態を招きました。まさに【創業は易く、守成は難し】です。

然しながら平成17年には府立の大阪女子大、大阪看護大との統合があり、女子部員並びにマネージャの数も増えてきました。また平成15年からは、関西選手権が琵琶湖から浜寺に移り、2000mレースが開催されるようになりました。

因みに平成15年には星野、17年には岡田タイガーズ監督がリーグ優勝をしています。(日本一にはなれませんでした)

6. 再盛期(平成20年～)

残念ながら対抗クルーは付きフォアーとなりましたが、朝日レガッタでは決勝進出を果たせるようになりました。また女子クルーもクオード、ダブルスカルなどでレースに参加するようになり、部活動も徐々に活発になりました。

平成20年には、漕艇部顧問を田中秀和准教授にお引き受け頂きました。筑波大でコックスとして活躍された眼で、様々な御指導を頂いております。(先般の筑波大紹介編の中にコックスとしての後ろ姿が拝見できます)

平成24年には大阪ボート協会の太田康智理事(現専務理事、関大卒)にコーチ役をお願いした結果、成績はメキメキ上昇しました。また国体の大阪代表選手にも選ばれるようになりました。

最近のレースでは決勝進出は当たり前となり、令和元年の関西選手権エイトでは準優勝、全日本選手権付きフォアーでは三位の成績を上げることができました。

更に平成28年卒の西和希君は、関西系大学としては初めてNTT東日本の選手となりました。また26年卒の駒井宏昭君、令和2年卒の奥村謙一君が中部電力で漕手として活躍しております。



令和元年 全日本選手権 付きフォアー

7. 最後に

小生を含め関東在住の飛翔会OBの多くはボート団塊号に所属し、鶴見川、宮ヶ瀬湖や戸田ポンドにて生涯スポーツであるロウイングを楽しんでおりますが、関西OBの連中は未だ漕ぐ機会も少ないためか、漕ぐよりも飲む方に勤しんでいるようです。

昨年地元浜寺で行われた全日本マスターズレガッタが、ロウイング再開のきっかけになると良いのですが。

コロナ禍の中、先を見通すことは困難な状況ですが、令和4年の新生大阪公立大学(仮称)が無事に離岸できることを祈念いたします。

平成30年 横浜市民レガッタ ナックルフォア60~69才



平成24年横浜市民レガッタ 飛翔会・八雲艇友会連合クルー

**八雲艇友会は東京都立大OB会

以上